



TITLE:

天文同好會の紹介/ 水澤に於ける太陽の觀測/ 火星近況/ 通信/ 支部通信

AUTHOR(S):

CITATION:

天文同好會の紹介/ 水澤に於ける太陽の觀測/ 火星近況/ 通信/ 支部通信. 天界 1924, 4(45): 371-373

ISSUE DATE:

1924-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160167>

RIGHT:

「天文同好會」の紹介

山 本 生

米國へ來てから、求めらるゝまゝに、「日本の天文學界」「日本の天文史」「日本の天文臺」「日本の天文教育」など、色々な題で、色々な人々に講話をしたり、又、雑誌や新聞に發表したりしましたが、「同好會」のことについても重ね／＼色んな紹介をしたことを會員たちは知つて置いて頂きたいと思ひます。

去る三月八日のことでした。當ハーブード大學に有名なミス・カノンが、私の所へやつて來て、

「私は二三日の後にワイラテルファイアからワシントンの方へ講演旅行に出かけるのですが序でに日本の同好會の事を話したいと思ひますから、材料を下さい。ごくあらましの簡條々々を紙にでも書いて。」

と言はれるものですから、

「オライ」

さばかり、早速、書いて手渡したのが左の如きノートでした。同好會が米國で如何に紹介されてゐるかを見て下さい。又、會員諸君さしても、それ／＼の御友達に同好會のことを話される時の參考にもなりませう。又、創立後同好會へ入會された人々にも、會の活動振りを見たすために、何かの參考になりませう。

——天文同好會——

英語で Society of Astronomical Friends

(天文、さも、だちの會さいふ意味)

創立、一九二〇年九月、山本古川其の他數氏發起して。

會員。男女を問はず、又、専門家さ否さな問はず、誰でも歡迎。現在會員數は壹千數百、小學生徒より退役老海員に至るあらゆる年齢を含む。

機關雜誌。「天界」毎月一回京都にて發行。現に第四卷を發行中。

事業。

講演。毎月、京都、岡山、其の他に、又、臨時に所々(主に支部所在地)で開く。

講習會。時々所々で天文及び其れと關係ある理學を主題として開く。何かの天文現象の起る機會を利用することもある。

天文展覽會。さき／＼。

實地觀察指導。普通は小望遠鏡などを利用ひて、天體の見かたを教ふ。

觀測部。

組織。特別申込の會員のみより成る。

觀測内容の種類。

一、小望遠鏡にて太陽黑點の觀測

二、肉眼又は望遠鏡にて變光星の觀測。

三、流星。

四、黃道光。

五、彗星搜索。

六、異常な天文現象を見守るために、部員各自に割當てられた星座を監視。

出版。

アレテン。英文にて、時々。

急報はがき。さき／＼。

本部。日本京都市京都大學天文臺内。

地方支部。總數約二十ヶ所。所々に散在し、主に多數會員の住居せる所及び特別な便宜のある場所に設く。

希望。

同好會計營の天文臺數ヶ所。東洋の所々に場所及び天氣の良好な場所に設けたい。

日本内地以外の遠方に新會員の加入を望む。但し之れば協同及連絡觀測の必要上。

イ、東洋の各所に。

ロ、米國の太平洋沿岸、殊に日本人の多く住む加州、ハワイ等の地方に。

機關雜誌。國際的に天文學上の協同及び連絡を得るために、英文の雜誌を發行したい。

巡回文庫。日本語及び外國語の天文書籍を所有したい。又、教育用として天文の幻燈畫をほしい。

有。

一九二四年三月八日

(通信)

水澤に於ける太陽の観測

米國ケンブリヂにて

山本一清

水澤緯度観測所には測地學協會上より借りたる古き六サンチの望遠鏡があつたのであるが本年五月八日の水星經過を観測する爲に之に太陽投影器を付け又自分の所有にかゝる十サンチ及五サンチの望遠鏡も取りよせて適當の据付をなし太陽寫眞なども作つて水星經過の日を待つて居つた。不幸にも此日は日本全國曇天又雨天であつて當所に在つても其朝短時間の間雲を透して水星を見たにさぞまり別に有益なる観測は出来なかつた。之を機會として當所にては太陽の観測を始めた。観測は千葉技手が毎日五サンチ又は六サンチを以て計算の餘暇を利用して観測してくれることになり自分も時々十サンチで観測することに居る。千葉君は天氣の良き日はなるべく正午頃に一回観測し雲の多き日は太陽の見えし時に一回観測し圖を取つて居る。初の間は白紋を見るに困難であつたやうであるが今日では大分よく観測が出来るやうになつた。今左に過去三ヶ月間の観測表をかゝる。

五月 観測日數

二十二日

内黒點又白紋の見えし日數十六日
曇天又雨天にて無観測 八日
事故の爲無観測 一日

六月 観測日數

十八日

内黒點又白紋の見えし日數十八日
曇天又雨天にて無観測 八日
事故の爲無観測 一日

曇天又雨天にて無観測 十一日

一日

七月 観測日數

二十八日

内黒點又白紋の見えし日數

二十四日

曇天又雨天にて無観測 三日

此の通信に一言附加し度は近頃太陽観測者も大分出來たやうであるから其観測を毎月天界に發表して戴きたいのである其の方法として

- 一 毎月十日迄に前月分の観測をまとめて同好會に送る事。
- 二 同好會では夫等を一につにまとめて翌月の天界に發表すること。

としては如何であらうか。尙同好會では今迄の如くブルチンに發表すれば一層よきことと思はれる。太陽の観測に限らず度光星の観測の如きも之をハーブードへ送りポヒュラーアストロノミーに出すさ云ふのみでなく之を天界又はブルチンに出すことすれば天文趣味の開發を助ける上に於て一層の効果のあることと思はれる。八月八日 山崎正光

畫帖より

山本一清

今(デンマーク國で)グドロン・ツヤストラウ

(Gudrun Jaeger)嬢は有名な黑白畫の畫家であります。同氏は數年以來ロンドンや米國諸所でも大に好評を受けました。近頃、デンマークのホルソエル(Horsø)さいふ町の一學校に寄贈した數枚の珍らしい大幅の畫の中に、

三八

こゝに掲げるやうなものがあります。此の圖は、「フレデリツキ二世天文家デヒヨ・ブラーヘを訪問す」といふ題で、即ち、歴史的に言へば一五二〇年十一月七日に王が同國エーランドにある此の有名な天文家の天文臺を訪れた事を畫いたものであります(一九二四・七一



フレデリツキ二世天文學者
デヒヨ・ブラーヘを訪ふ

三〇。米國ハーブード天文臺にて) 火星近況今號にて中止して二月頃まで發表の豫定 六時半 反射鏡使用後好成绩の爲め殆んど七時を使用せず。大接近の觀測にて一

九〇九年アントニアヤ氏の觀測の大部分を承認する結果となれり。總てにあらすしてピクリンク氏の所説をも混す。或一部の細きクモ糸の如き連河が對稱の爲めのイリマシオンなる事も認めたり。何等新しい事件なし。部分的には異常の部分もあり、八月二十二、二十



森下氏と愛用のオットー三吋赤道儀

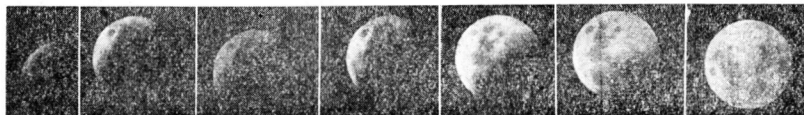
三日ケルベルス運河甚だ鮮明、三時にても認められ、全然素人に對しても此れを示す事を得たり。十數名此れを認む。

拜啓 毎日の照りでやりきれませんね。田舎では何十年來の早魃だそうです。百姓連は毎日水争ひと雨乞ひで騒いで居るさういふ事です。吾々星好みの者には毎夜の空は結構な事です。

時に去る十五日の月蝕の寫眞を撮影致しましたので御送り致します左に撮影時刻を記しておきます。

1、蝕の約一時間前2、午前三時四十分3、三時四十二分4、三時四十八分6、四時〇分7、四時一分8、四時十二分皆蝕後西山に入つてしまひました。夜明前、金星の見取圖を書いて見ました。三時で好く模様が見えて居りました。

月蝕寫眞



1 2 3 4 5 6 7

八月十九日

神戸 森下助次郎

寫眞は四時半エリソン反射鏡にてフィルム使用。

○岡山支部八月通信

一、天文及び氣象について三日から九日まで、金光教徒新聞社主催の「少年團に關する講座」に、水野幹事は三日間出席し、前記題目で講話をなし、夜は實地觀測殊に五日の夜は幻燈によつて天體及び氣象現象について説明した。

二、天界研究會、九日午後七時から水野幹事宅で開催した。

三、家庭宣傳、八日は戸部文學士宅、十九日は上林氏宅で。

四、三吋望遠鏡の活動、守屋荒美雄氏寄贈の三吋望遠鏡が二十三日に到着したので、左記の諸會を同望遠鏡を中心として催した。

1、火星觀測會、二十三日は支部、二十七、八日は東山、二十九日は佐藤關西

中學校長宅、三十日も支部。

2、日蝕觀測、三十日支部で。

3、太陽の觀測、三十一日大黒點群や數多の黒點が現れたので、浦上師範教諭宅前で觀測、一般の人々に隨意觀望せしめた。

4、守屋氏に感謝す。火星大接近の二十三日に寄贈下さつた望遠鏡によつて、旬日ならざるに、數百人に火星、木星、土星太陽黒點等を觀望せしめ、斯學普及の一助となつたが、日を重ぬるに従ひ、數千數萬の人々に實地に星を觀測せしめることが如何に科學智識を養成する上に大なるかを思へば、大に同氏に感謝せざるを得ないのである。

○美作支部八月通信

一、講演 會員村次剛氏は八月六日夜津山幼稚園に於て附近青年のため「八月の天」につきて講演。

同氏は翌七日林間學校（兒童夏季大學）に於て少年少女のため「七夕の話」の題目の下に講話。

會員山本孝二郎氏は八月二十九日同町西新町子供會に招かれ「火星」につき講話。引つづき森本望遠鏡にて火星を觀望させられた。

二、會員消息

山本孝二郎氏是一日より二十三日まで和歌山縣有田郡に滞在。二十四日京都天文臺の火星觀測會に赴きしも雨のため觀測不能。二十六日歸津さる